# 2023年度(2024年3月期) 第2四半期 決算説明会

株式会社ダイヘン

2023.12.4



# 目 次

- 1. 業績サマリー
- 2. 2023年度第2四半期業績
- 3. 中期計画 "Step Up 2023" の取り組み状況
- 4. 2023年度業績予想
- 5. ステークホルダーへのリターン

# 業績サマリー

#### 通期業績予想

◆ 半導体関連市場が調整局面を迎えている影響により中計目標未達の見通しだが、脱炭素関連投資の拡大や生産自動化・EV投資拡大を背景とするEMSやFAロボットの販売拡大により、過去最高の売上高・利益を更新する。

#### 第2四半期業績(実績)

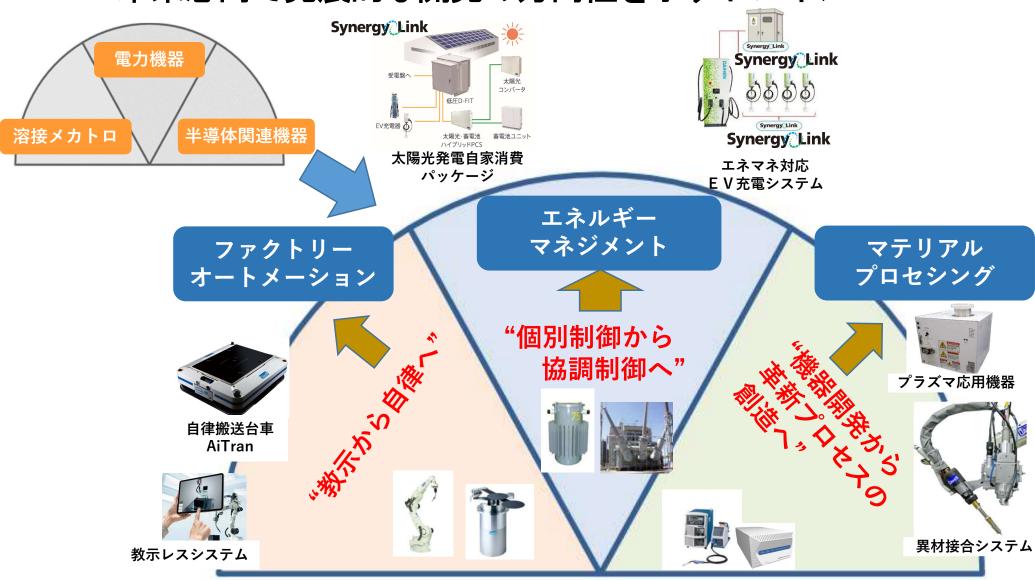
- ◆ 半導体関連投資において、懸念された中国向けは旧世代装置の需要が比較的堅調。 また、配電機器の更新投資等も想定を上回った。
- ◆ 東北電機製造やLORCH社の買収契約を締結するなど将来に向けた取り組みも進んだ。

(単位:億円)	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 予想	2023年度 中計目標
売上高	1, 606	1, 853	1, 870	2,000以上
エネルキ゜ーマネシ゜メント	689	753	900	(750以上)
ファクトリーオートメーション	313	336	380	(450以上)
マテリアルフ゜ロセシンク・	603	762	590	(800以上)
営業利益	141	165	170	_
営業利益率	8. 8%	8. 9%	9. 1%	10%以上

2023年度第2四半期				
予想	実績	計画比		
770	789	+19		
340	352	+12		
180	173	<b>▲</b> 7		
250	263	+13		
45	51	+6		
5. 8%	6. 4%	+0. 6P		

# 報告セグメントの概要(2023年度第1四半期決算より適用)

## ~ 未来志向で発展的な開発の方向性を示すドメインへ ~

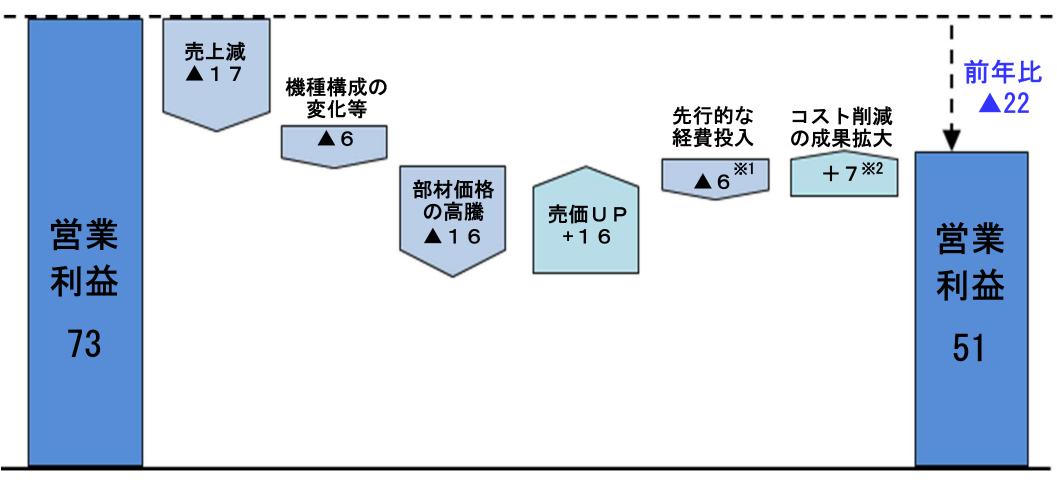


# 2023年度第2四半期業績

(単位:億円)		2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	前年同期比較	
		実績	実績	増減	増減率
売上高		832	789	▲43	<b>▲</b> 5. 1%
	1 エネルキ゜ーマネシ゜メント	314	352	+38	+12.0%
	2 ファクトリーオートメーション	163	173	+10	+ 6.5%
	3 マテリアルフ゜ロセシンク <sup>*</sup>	354	263	<b>▲</b> 91	<b>▲</b> 25.6%
営業	利益	8.8% 73	6. 4% 51	▲22	▲31.0%
経常	利 益	9. 9% 82	7. 3% 58	▲24	▲29.6%
親会四半	社株主に帰属する 期純利益	7. 3% 61	5. 2% <b>41</b>	▲20	▲33.1%

# 営業利益変動要因(2022年度2Q実績~2023年度2Q実績)

(単位:億円)

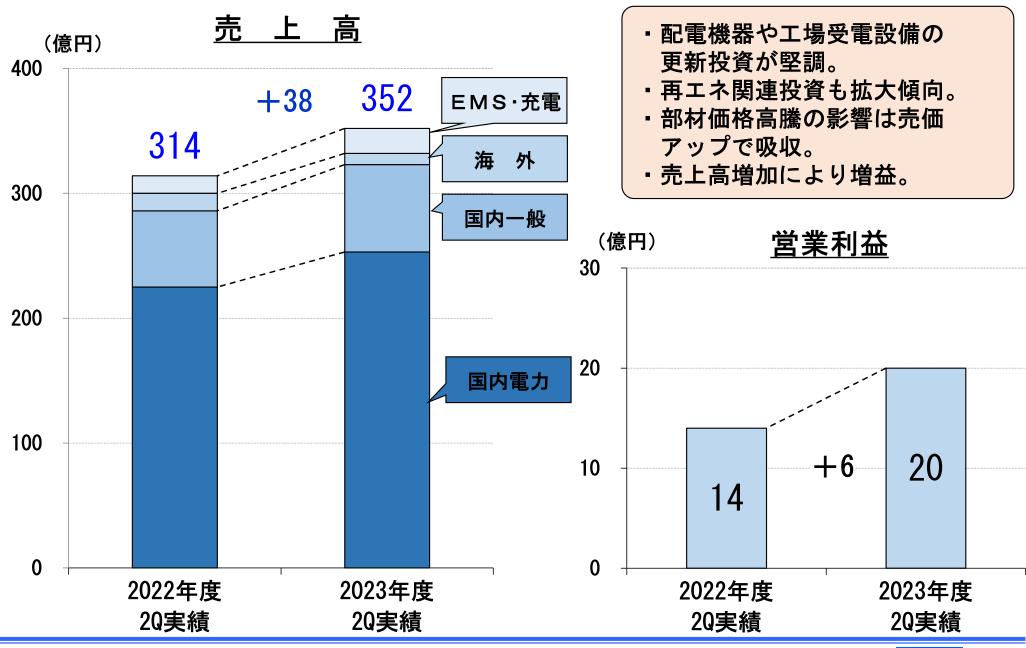


2022年度 20実績 2023年度 20実績

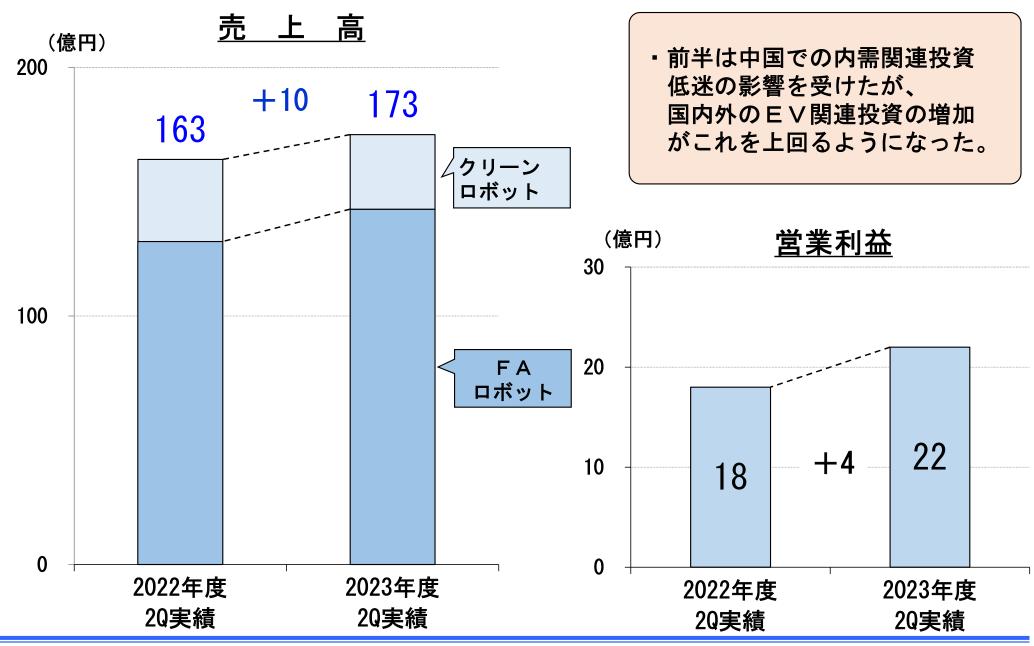
※1. 先行的な経費 : 賃金アップ▲4、広告宣伝費増 ▲2

※2. コスト削減の成果 : 材料コストダウン +4、間接業務効率化 +3

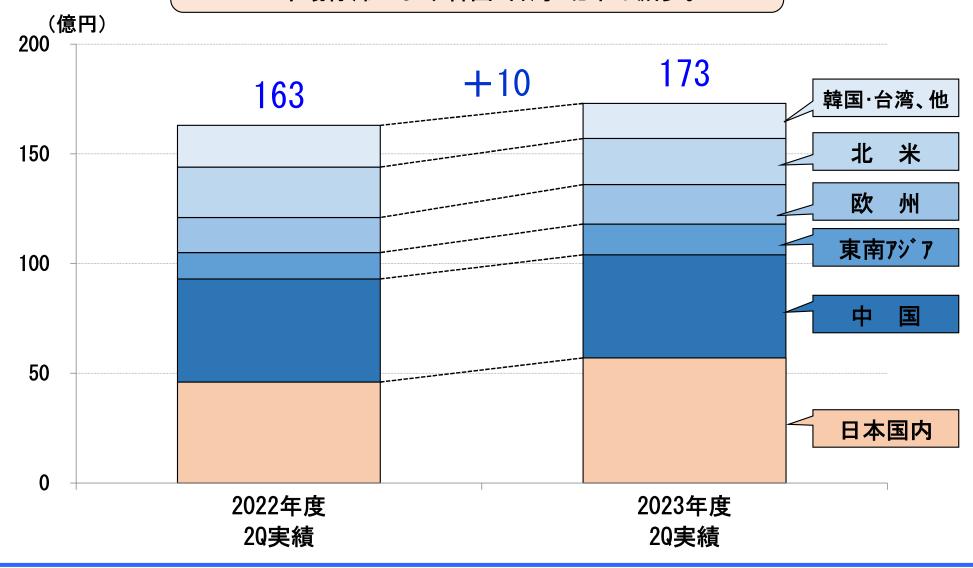
# 1 「エネルギーマネジメント」セグメント



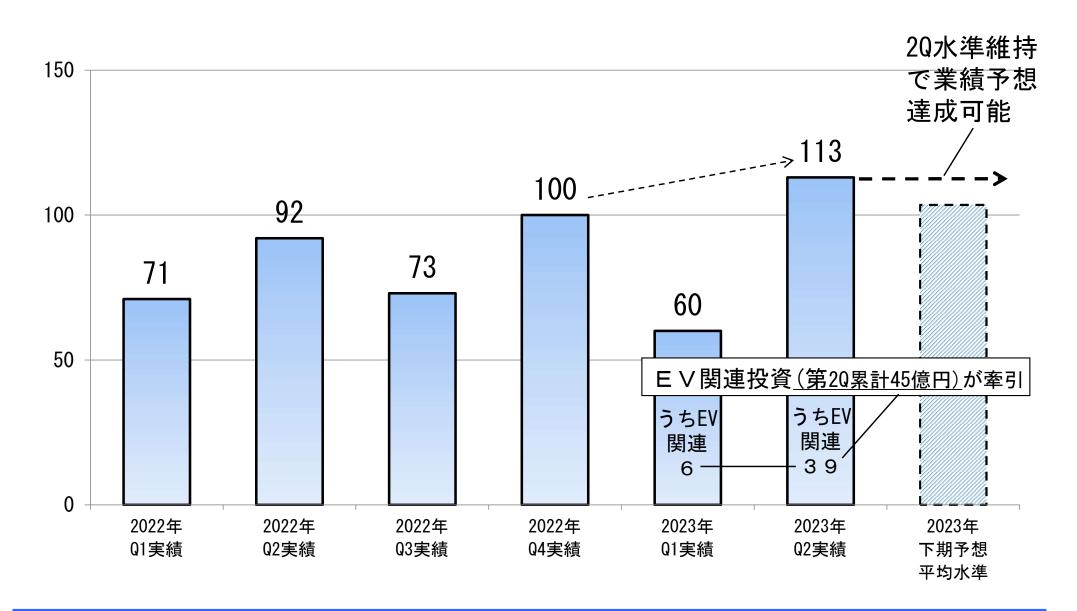




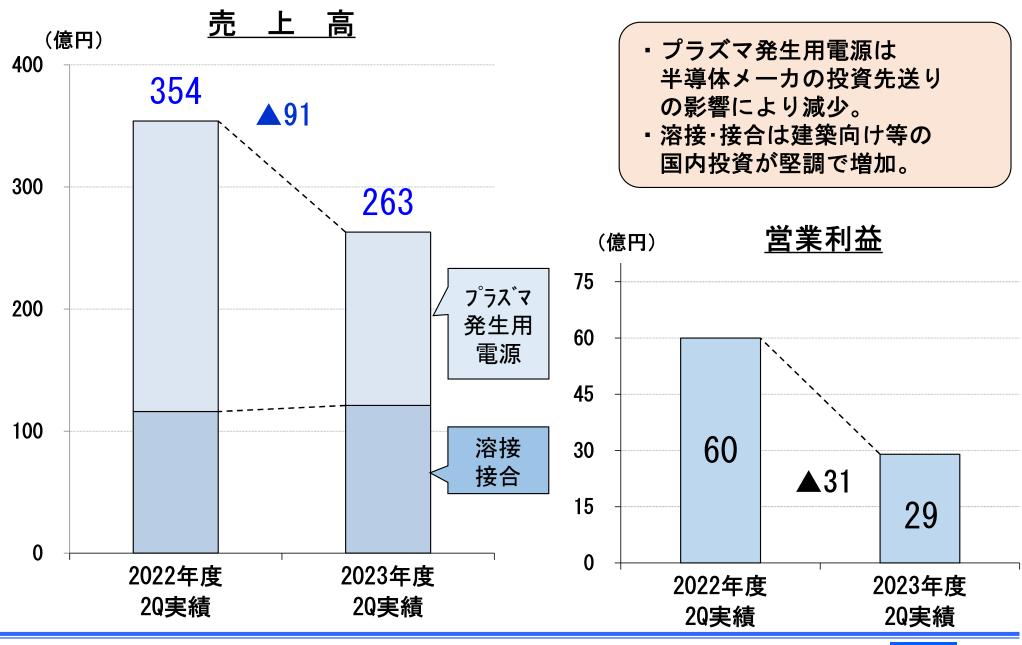
- ・EV関連・生産自動化投資が国内外で増加。
- FPD市場停滞により韓国・台湾・北米は減少。



# 「ファクトリーオートメーション」売上高 四半期推移



# 「マテリアルプロセシング」セグメント



# 中期計画"Step Up 2023" の取り組み状況



# 「Green Solutions & Tailored Solutions」の推進

#### 目指す姿

当社が強みとする技術と多様な最先端技術を融合させることにより、 <u>重点分野の社会課題の解決</u>に積極的に貢献する企業

#### 当社が強みとする技術

- •電力変換技術
- •高周波技術
- •自律分散協調制御技術
- ・接合プロセス技術
- ・高精度・高速ロボット制御技術

#### 外部の認識課題(主な社会課題)

- ·地球環境保護·CO2削減
- 労働力不足解消 -
- ・多様な働き方の支援・
- ・国土強靭化、デジタル化推進、 少子高齢化対策、食の安全確保、 経済格差是正など

#### 当社の課題

• 資本効率を高めるためには 開発の重点を絞り込む 必要がある Green Solutions & Tailored Solutionsの推進

#### **Green Solutions**

脱炭素社会の実現に貢献するため、再生可能 エネルギーの活用拡大、環境負荷の低減、 EV普及、省エネ等に資する用途別に最適化 した標準製品・パッケージを開発する。

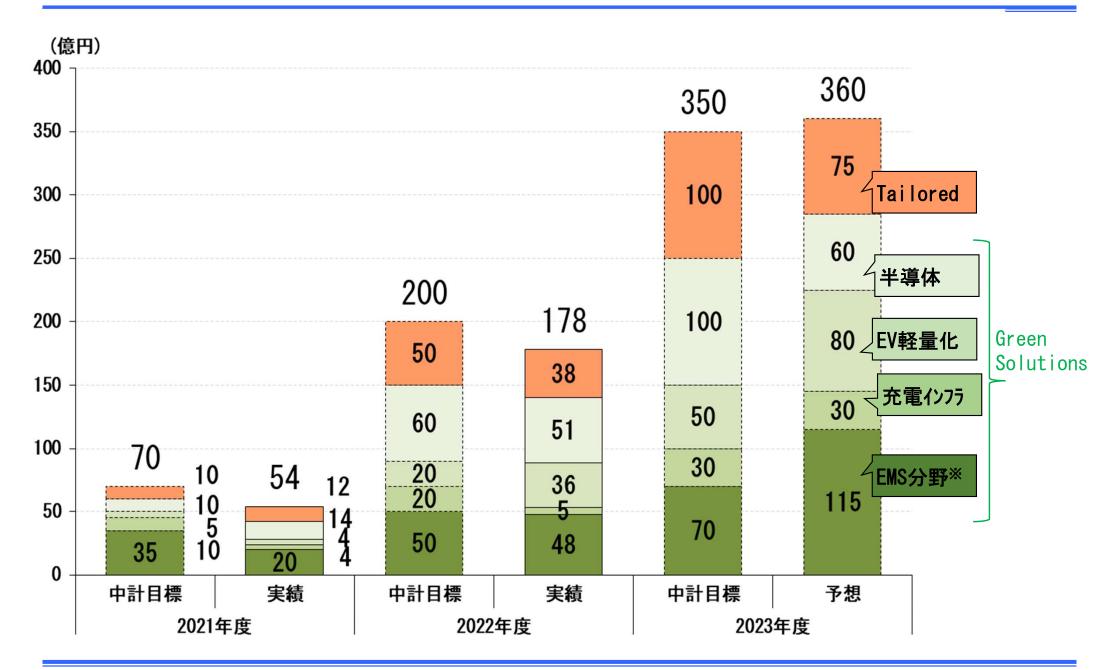
#### Tailored Solutions

モノづくりに携わるお客様がもつそれぞれの 事情に合わせ "特別にあつらえた"ロボット システムにより、それぞれが抱える課題に応 じた最適な解決手段を提供する。

ビフォアからアフターまで工場全体の自動化をワンストップでサポートすることで大手企業はもとより中小企業や新興国での自動化を後押しする。

P13

# 「Green Solutions & Tailored Solutions」の売上高目標

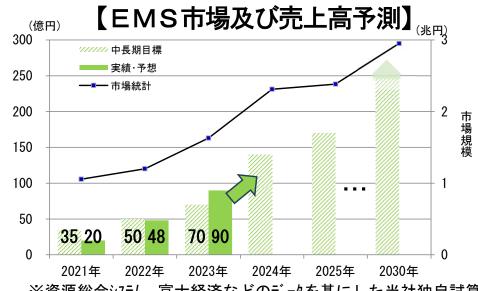


P14

#### ① 再生可能エネルギー対応EMS (Green)

#### 【市場環境】

- ・再生可能エネルギーの導入拡大の課題解決に向け、政府は系統用蓄電池導入を2030年までに244 が ワット時 (2023年の8倍) とすることを目指し、補助金や『長期脱炭素電源オークション』等の支援策※を展開中。
- ・2024年度より実施される長期脱炭素電源 オークションは、事業者にとってリスクが 低く魅力ある制度であり、補助金からオーク ション活用へと変更するケースが増加(納入 時期は2024年度以降になる)。
- 同制度は導入時のシステム価格が重視される ため、海外製電池採用や電池容量の最適化等 のコスト低減を実現する機器の開発が重要。



#### ※資源総合システム、富士経済などのデータを基にした当社独自試算

#### ※ 系統用蓄電池市場導入支援策

	補助金	オークション
決定方式	採点審査	価格の安い電源から <u>決定</u>
審査項目 (加点要素)	<u>蓄電池セル、PCSの製造ライン</u> が国内にあること	特になし (国内外問わず)
供給力の提供期間	_	20年容量保証
その他	10MW以上については <u>1/2以内</u> (上限25億円)	固定費を国が補償

蓄電池事業者の多くが、補助金利用から、 投資回収の確実性が高い「長期脱炭素電源オークション」へ移行

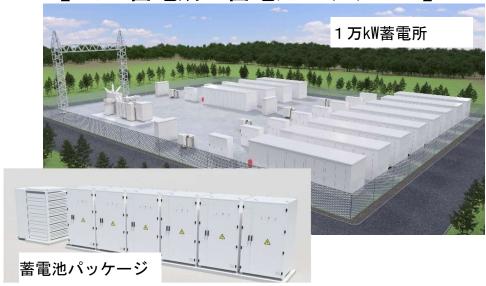
#### ① 再生可能エネルギー対応EMS (Green)

#### 【これまでの成果と今後の取組み】

#### ◇大容量蓄電池

- ・低価格、短納期対応強化のため、海外製電池にも対応し、ユニット数の変更で最適な電池容量を選択可能な蓄電池パッケージを市場投入。
- ・次年度以降の納入になるが、多くの引合い (600億円以上)があり、 今年度約80億円の受注を見込む。

#### 【1万kW蓄電所と蓄電池パッケージ】



#### ◇自家消費太陽光発電市場

- 電気料金の上昇に伴い蓄電池併設のニーズが拡大。
- 安価なリユースバッテリーも選択できる 『自家消費パッケージ』の引き合いは 常時100件程度あり、前年比倍増を 見込む。

#### 【自家消費パッケージの納入事例】



太陽光と水素の再エネと蓄電池を組み合わせた 自家消費パッケージ (トヨタ九州小倉工場)

#### ② 充電インフラ機器・システム(Green)

#### 【市場環境】

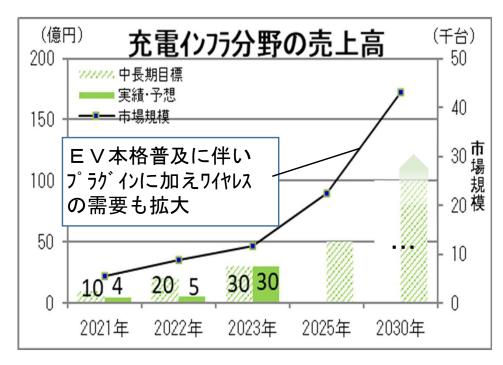
- ・政府目標(2030年度までにEV急速充電器 3万基設置)に沿ってインフラ整備が進む。
- ・政府は大容量化(90kW以上/ロ)や 複数プラグ化を推奨。
- 業務用車両のEV化が本格化しつつある。

#### 【当社の基本戦略】

#### ◇プラグイン充電器

- ・複数台を経済的に充電管理する必要がある 配送事業者、バス会社等に独自のエネルギー マネジメントシステムを搭載するパッケージ の販売拡大を目指す。
- ・電力会社系サブコン等のパートナーとの 販売活動で成果拡大中。

#### 【充電システムの市場及び売上高予測】



※政府グリーン成長戦略をもとにした当社独自試算

#### ◇ワイヤレス充電システム

- ワイヤレス充電システムの大容量化により商用車での標準搭載を先行させる。
- ・電力会社等との走行中充電の実証と並行し、自動車メーカとのアライアンス強化により、 長期成長のポテンシャルを高める。

P17

# ■プラグイン充電器

#### ◇配送用EV向け

- ・EVの効率的な充電管理を実現するEMSを搭載し、 充電切れ防止と電気基本料金最小化(ピーク電力カット) を両立する充電パッケージを開発。
- ・大手物流会社配送センターへの納入済みで、2022年から の3年間で約20ヵ所へ合計1,000台以上納入する予定。

#### ◇EVバス向け

- ・大手EVバスメーカ2社の仕様に適合済。 EMS搭載と受配電設備工事も合わせたソリューション提案により、 2023年度40ヵ所以上に納入(前年比倍増)予定。
- ・開発済みの大容量180kW急速充電器を武器に 2024年度は100ヵ所以上納入を目論む。

#### ■大容量180kW急速充電器の特長

- •5分の充電で100km走行可能(国内最速・180kWブースト充電時)
- ・4プラグにより最大4台に最適な充電を実現
- ・独自のエネルギーマネジメントシステム(Synergy Link) 搭載で最大使用電力を抑制・平準化し電力料金を抑制



大容量180kW 急速充電器

## ■ワイヤレス充電システム

#### ◇「15kW EV用ワイヤレス急速充電システム」(国内初)

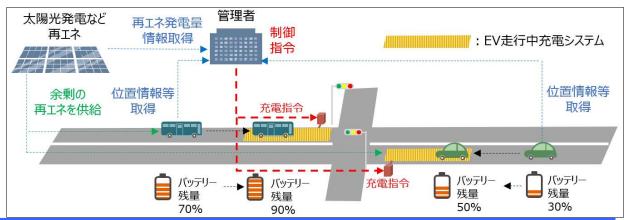
- ・当社従来製品比5倍の高出力(15kW)が可能な ワイヤレス急速充電システムを国内で初めて製品化。
- ・並列接続可能(3台なら45kW)で、大型の業務車両でも "停めるだけ充電"の利便性を実現。



E V 用ワイヤレス急速充電システム (「Japan Mobility Show2023」出展)

#### ◇EV用走行中充電システムの実証実験 (~2025年大阪万博)

- ・関西電力・大林組・大阪メトロ・NEXCO東日本とともに、
  NEDOの助成事業「グリーンイノベーション基金事業」として「走行中充電システムに関する技術開発」に参画。
- ・走行中充電システムは2025年大阪・関西万博会場内の道路に実装し、 会場にアクセスするEVバスの充電に使用される。
- ・実証を通じてEVの走行距離延長 と充電の利便性向上を目指すと ともに、再エネの効率的な活用 に繋げる。



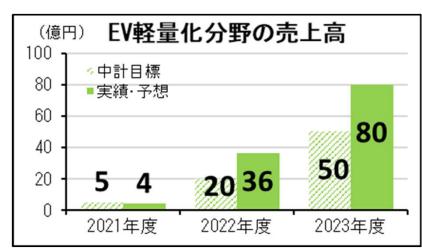
#### ③ E V 軽量化対応接合機器(Green)

#### 【市場環境】

・国内外でEV関連投資の拡大が顕在化、中計当初の目標を上回る見通し。

#### 【これまでの成果と今後の取組み】

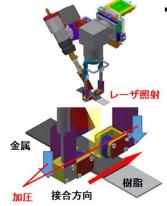
- EV軽量化に向けた異材接合に最適なソリューション を提供する新たなシステムを多数開発。
- ・2022年度に引き続き2023年度も大手中国EVメーカ からシンクロフィードの優位性を認められ大形 案件を継続受注。その他、国内外での案件獲得が進む。



#### ◇シンクロフィード・エボリューション

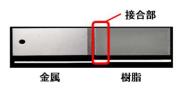
・超ハイテン材やアルミ合金等、車体軽量化に 欠かせない難接合素材を低スパッタ・高品質 に溶接可能。





#### ◇異材接合システム

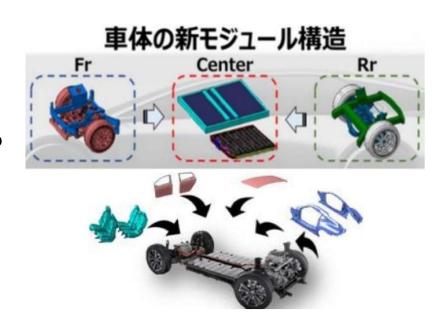
- E V 部品で適用が拡大している樹脂と金属の異材 接合技術を開発。
- ・加圧とレーザ照射により十分な接合強度を実現。
- ギガキャストのモジュール接合で必要になる鉄と アルミの鋳物接合にも対応可能。



# ■参考:ギガキャスト採用による当社ビジネスへの影響

#### 【ギガキャスト】

- 車体を3分割したモジュール構造とし、フロント とリアのボディにギガキャストを採用。
- 3モジュールを接合後にバッテリ、モータ、無線やタイヤ等を組み込み、搬送工程を簡略化する。



#### 【当社ビジネスへの影響】

- ・ 現工程では、大形スポット溶接による組立。 当社への影響はない。
- ・足回り等の部品はギガキャスト化後も従来通り当社が強みを持つアーク溶接が使用される。
- 3モジュールやバッテリーケースの接合工程が新設。いずれも軽量なアルミなどの 難接合材が使われ、当社の接合技術の強みが発揮できるビジネス機会と考える。

#### ④-1 半導体製造装置向け省エネ電源 (Green)

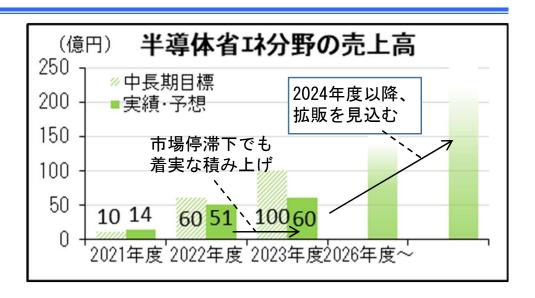
#### 【市場環境】 ※SEMI統計

・半導体関連投資は2024年に本格回復を迎え、 生成AI需要増等により市場は更に拡大する 見通し。



#### 【これまでの成果と今後の取組み】

- ・大手半導体製造装置メーカがメモリ製造工程 におけるシェアアップを実現する競争力の 高い新プロセス<sup>※</sup>のキーコンポーネントとして 標準搭載を獲得。
  - ※400層を超える3D NAND (フラッシュメモリ)の エッチングを高速かつ省電力で実現する技術で、 同技術を使用した工程向けの市場規模は 拡大する見込み。(23年5億ドル→27年20億ドル)



#### ◆高周波電源システム生産工場の増築



- 2024年4月竣工予定
- 生産能力約1.4倍へ(最大2倍まで可)

# クリーン搬送ロボットの新製品・新技術

半導体市場は2024年以降に回復、中長期的に拡大の見込み。半導体製造装置メーカは、 半導体需要増加や微細化・積層化によるプロセス時間の増加に対応するため、 装置の生産性向上(省フットプリント化や高速化によるウエハ処理枚数の増加)を進めている。

#### 当社の取組み



Equipment Front End Module

半導体製造装置メーカのニーズに応えるため、EFEM※と真空装置用の両面で、 省スペース半導体ウエハ搬送ロボットを開発

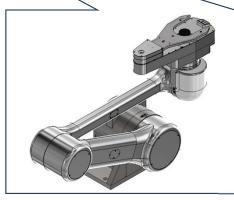


#### 真空用ロボット

- ・水平多関節アーム構造に よる装置レイアウトの最適化
- ・高性能ダイレクトモータの 開発による高速・低振動・ 高精度搬送
- ⇒2024年1月リリース予定

半導体工場クリーンルーム内に、 より多くの装置を設置可能

→同一面積で設置可能台数3割増



**医三三** 

#### 大気用ロボット

- ・垂直多関節構造による 搬送エリアの最小化
- 全軸回転機構による発塵抑制
- ⇒2024年1月リリース予定

#### ⑤ お客様固有の課題への最適ソリューション(Tailored)

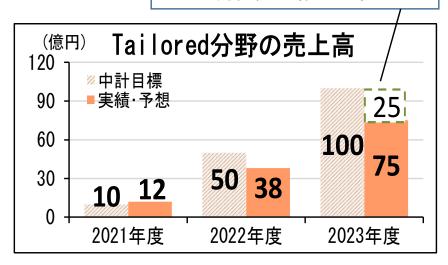
#### 【市場環境】

- 国内外で生産自動化・EV関連投資が増加。
- ・日本では中小企業の生産性向上に向け 産学連携の「ROBOCIP(当社参画)」の取り組み が進む。

#### 【これまでの成果と今後の取組み】

- ロボットアームやAMR(自律搬送台車)の ラインアップ拡充、「教示レスシステム (業界初)」を市場投入。
- 当第2四半期にはアーク溶接に最適な協働 ロボットをリリース。 協働ロボットの安全性や扱いやすさを備えながら 溶接ティーチングが容易で耐環境性に優れるなど あらゆる溶接の自動化ニーズに応える。
- 簡単教示ロボットが1台複数役をこなすことで 中小企業のロボット導入障壁を取り除いた システム販売を拡大。
- ・SIer2社買収に続き、ドイツ国内シェア2位の 溶接機メーカLORCH社を買収、 欧州ビジネス拡大を加速させる。

買収した欧州SIer2社の売上高 (現在非連結子会社)





# 【トピックス①】 ドイツの大手溶接機メーカ「LORCH(ローヒ)社」の買収

#### 要旨

- ・ドイツ国内シェア2位の溶接機メーカLOROH(ローヒ)社 を完全子会社化(取得価額21百万ユーロ〈約34億円〉)。
- ・欧州での溶接機・アーク溶接ロボット事業トップシェア 獲得を目指し、2026年度までに欧州売上高を現状(約60億円)比約3倍の200億円超に拡大させる。

#### 期待する効果

- ①ローヒ社の販売ネットワーク・ユーザ直販体制を活用した欧州での当社製品(溶接・接合機器、FAロボットシステム)の販売拡大
  - ・ローヒ普及機 + 当社ハイエンド機
  - ・ローヒが販売するロボットを当社製に置換
- ②当社販売ネットワークでのローヒ社製品の販売拡大
  - ・欧州ブランド活用による東南アジア・中国市場で販売拡大
- ③技術の融合による新製品・サービスの拡充
  - ・当社が持つ最先端の溶接プロセス技術・インバータ技術とローヒ社の欧州市場にフィットしたデザインを融合

#### ■ローヒ社の概要

資	本	金	2,500千ユーロ(388百万円)
売	上	郖	約85億円(2022年度)
溶接	接機シェ	ロア	ドイツ2位、欧州5位

• 2023年8月: 持分譲渡契約締結

・2024年1月:株式譲受完了予定



P25

# 【トピックス②】

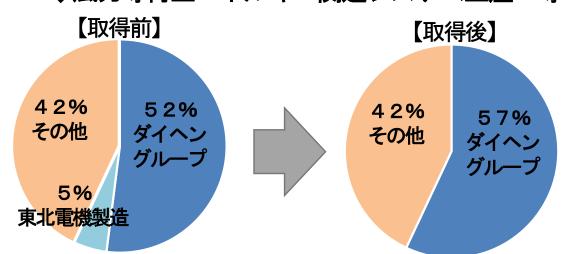
# 東北電機製造㈱の株式取得について

#### 株式取得の内容

- 東北電力と日立製作所の合弁会社である東北電機製造㈱の株式を取得する株式譲渡契約書を締結(取得後の株主構成:ダイヘン70%・東北電力30%)
- ・2023年10月2日に株式取得(取得価額35億円)、2023年度下期から連結対象とする。

#### 期待する効果

- 東北地方での販売拡大及び、同社とのシナジーによる生産体制の強化
  - ◇関東以北の民需向け受配電機器製造
  - ◇風力等再生エネルギー関連システム生産等



#### ■東北電機製造の概要

資本金	1億8千万円
売上高	8 3 億円(2022年度実績)
事業内容	配電用変圧器・配電盤などの 製造・修理、販売、据付工事

【全国の柱上変圧器の台数ベースでのシェア(2023年度予測)】

※JEMA統計データ及び当社独自調査による概算

# コストダウンの取組み(自社製ロボットによる自動化推進)①



#### 小形、中形ロボットの組立自動化(六甲事業所)

ロボット本体の組立完全自動化に加え、生産ライン全体の自動化として、 組立ラインの前後工程の自動化(モータへのギヤ取付や上腕カバー取付等)に取り組む。 また、海外向けロボット梱包の自動化にも着手し、作業員3名減(約40%減)を見込む。



【生産ライン自動化率】

2022年度:75% 2023年度:80%

# コストダウンの取組み(自社製ロボットによる自動化推進)②



#### 柱上変圧器ケースの製缶自動化(南電器製作所)

柱上変圧器ケース製缶工程の自動化設備において、蛍光探傷検査工程への前準備とな るゴム栓取付および工程間搬送の自動化に取り組む。



【生産ライン自動化率】

2022年度:75% 2023年度:80%

# コストダウンの取組み(自社製ロボットによる自動化推進)③

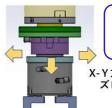
#### 自動電圧調整器用タップ切換器の組立自動化(三重事業所)

「モジュール設計の推進、標準製品の最終組立·検査の完全自動化により人手に頼らない生産体制を構築」をコンセプトに、配電用機器である自動電圧調整器(SVR)用タップ切換器の組立自動化に取り組む。モジュール化した部材を次の要素技術を活用した設備にて、難易度の高い自動化を実現。

【生産ライン自動化率】 2023年度:60%



部品の位置ずれを吸収させる技術



ワークを保持したまま ズレ分に追従

X-Y方向自在に ズレを吸収



#### 位置決めピン

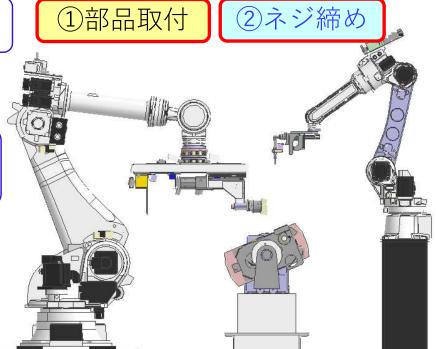
長尺物の対角2か所に 挿入してネジ位置合わせ

先端テーパ形状で ズレを吸収

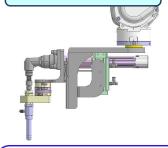
カメラによる位置補正

カメラ

ワークのずれに合せて ロボットを補正



#### ネジ締め制御



#### ナットランナー

(トルク、速度、回転数を 制御するネジ締めツール)

# 2023年度(2023年4月~2024年3月) 【業績予想】

# 通期業績予想

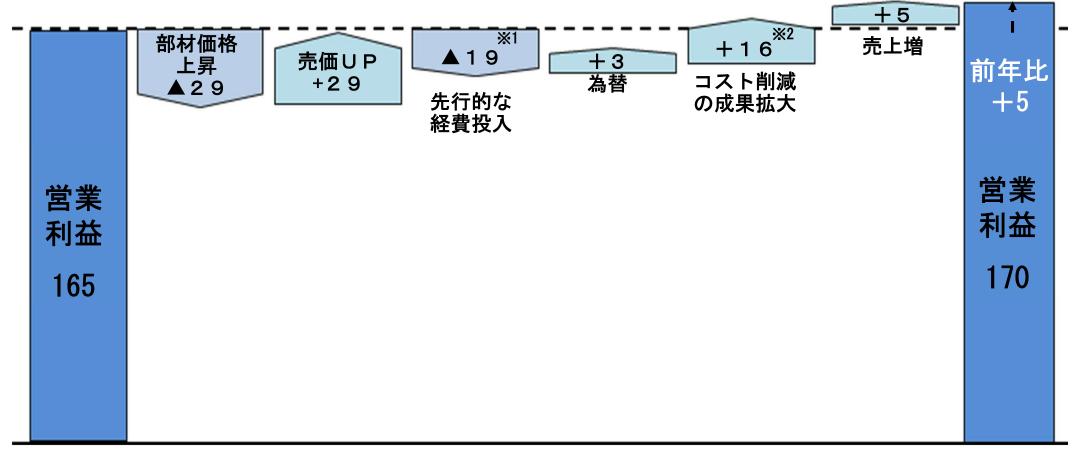
- ◆ 第2四半期業績はEV関連投資や配電機器更新の増加等により業績予想を上回った。
- ◆ 第3四半期以降の事業環境は半導体関連投資の回復遅れや中国経済の停滞が懸念されるが、配電機器や国内民間企業の設備投資、国内外のEV関連投資が増加するなど総じて堅調に推移する見通し。

		2023年度	2023年度	前年同期比
	(単位:億円)	第2四半期 予想	第2四半期 実績	増減率
売	上高	770	789	+2.5%
	エネルキ゜ーマネシ゜メント	340	<i>352</i>	+3.6%
	ファクトリーオートメーション	180	<i>173</i>	<b>▲</b> 3.8%
	マテリアルフ゜ロセシンク゜	250	263	+5.2%
営	業利益	45	51	+12.7%
経	常利益	47	58	+23.1%
親す	会社株主に帰属る四半期純利益	35	41	+16.8%

2022年度	2023年度	前年同期比
通期 実績	通期 予想	増減率
1, 853	1, 870	+0.9%
<i>753</i>	900	+19.5%
<i>336</i>	380	+13.1%
762	590	<b>▲</b> 22. 6%
165	170	+2.6%
176	177	+0.2%
131	135	+2.3%

# 2022~2023年度 営業利益変動要因

(単位:億円)

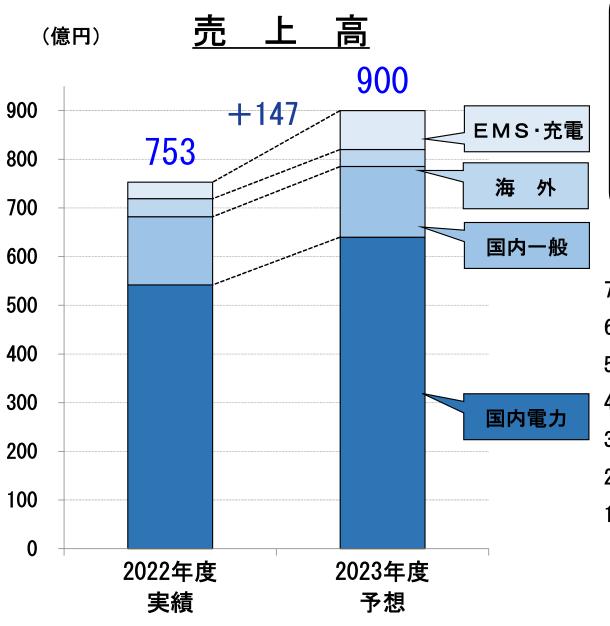


2022年度 実績

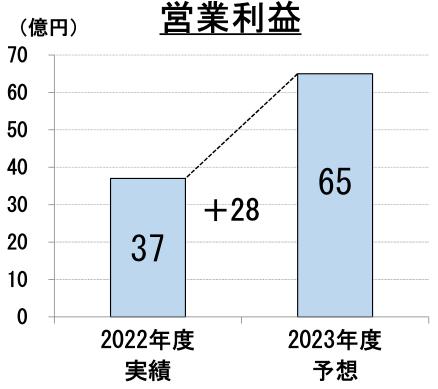
2023年度 予想

※1. 先行的な経費 : 開発費増▲7、償却費増▲4、賃金アップ▲8

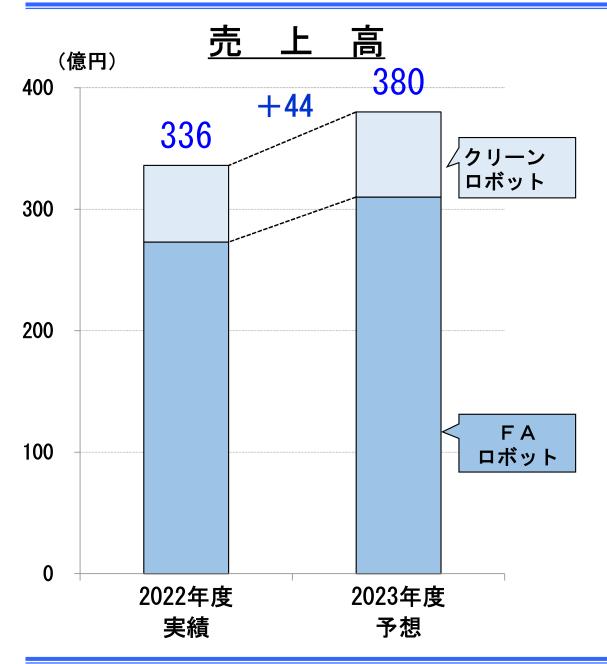
※2. コスト削減の成果 : 材料コストダウン +8、間接業務効率化 +8



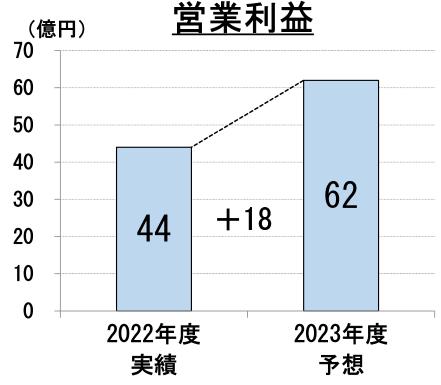
- 系統用蓄電池(政府補助金)関連の 需要大幅増加を見込む。
- 第3四半期より東北電機製造の新規連結による売上高増加は織込済み。
- ※系統用蓄電池は「長期脱炭素電源 オークション」へのシフトにより 一部案件が翌期繰越しとなるが、 配電機器等の増加で挽回可能。



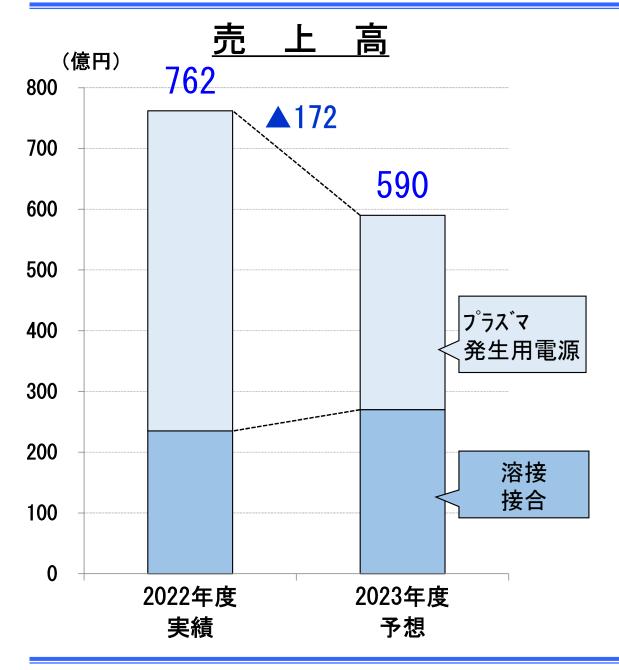
# **2** 「ファクトリーオートメーション」セグメント



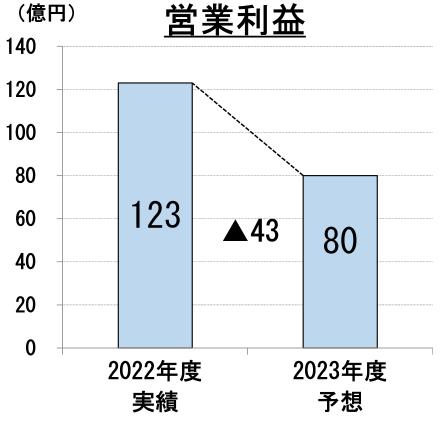
- ・国内外でのEV関連投資は 引き続き好調に推移。
- ・ローヒ社活用による新規ユーザ 開拓を推進する。
- ・クリーンロボットはウエハ分野 (新規)での増加を見込む。



# 「マテリアルプロセシング」セグメント



- ・半導体関連投資の先送りが懸念 されるが中国向け旧世代機種の 需要は増加。
- ・ローヒ社との協業による販売増 を見込む。



# ステークホルダーへのリターン

# 「幸せの目標値」

# ステークホルダーへのリターン

#### ~「幸せの目標値」に沿ったバランスの取れた利益還元~

	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2023年度予想
売上高	1,451億円	1,606億円	1,853億円	1,870億円
営業利益率	8. 4% (121億円)	8.8% (141億円)	8.9% (165億円)	9.1%(170億円)
ROE	11. 0%	11. 5%	12. 4%	12%

#### ダイヘングループの目的

"みんなの幸せ (1985年/第5代社長 小林啓次郎) **同時達成"** 

お客様

- ・「ならでは製品」を連続創出のため売上高の6%を開発費投入
- ・「ならでは製品」の売上高構成比率40%以上

社

員

3回目の賞与(対前年度5%以上増益の場合に支給)営業利益 80億円以上:1ヶ月~120億円以上:2ヵ月(上限)

株

主

・配当性向30%以上

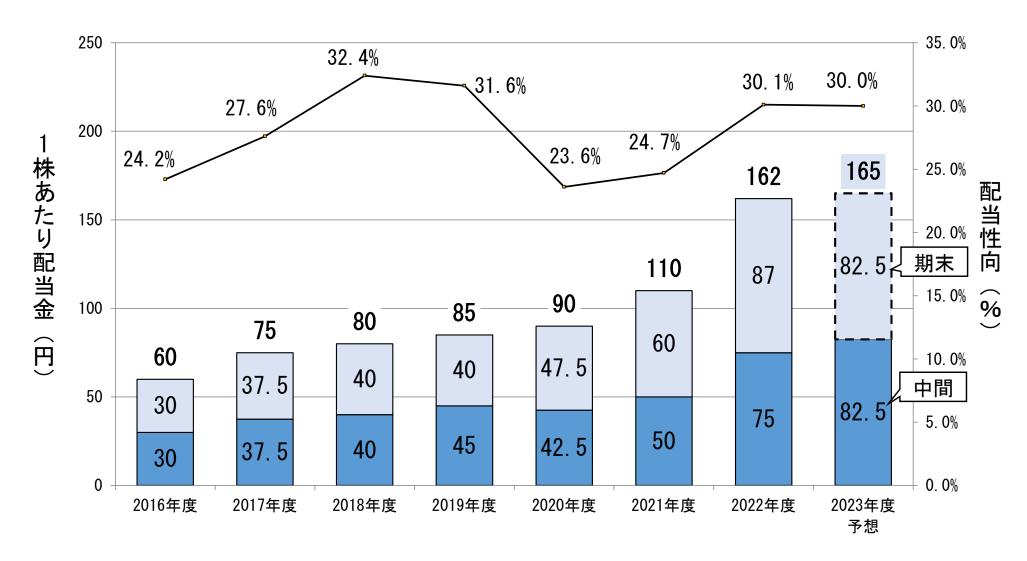
資材取引先

・コストダウン成果の50%還元

地域社会

- ・地域の子供達の福祉のため営業利益の1%を寄付
- 環境配慮製品構成比率80%以上

# 配当金の推移



中間配当を計画通り1株当たり82.5円で12/5(火)実施予定年間配当は7期連続増配を計画

# 開発費投資額、設備投資額、減価償却費

(億円)

	2021年度		2022年度		2023年度	
	20実績	通期実績	20実績	通期実績	20実績	通期予想
開発費投資額	38	(4.6%) 73	38	(4. 2%) 78	38	(4.5%) 85
設備投資額	21	44	24	49	34	100
減価償却費	24	50	25	51	24	55

( )売上高比率

# 資本政策とキャッシュフロー

#### 資本政策の基本的な考え方

- ◆ 「幸せの目標値」に沿ったステークホルダーへのバランスのとれた利益還元と積極投資
  - ⇒ ROEの改善(中計目標12%以上)と自己資本充実(自己資本比率50%水準維持)の両立
- ◆ 当中期計画では営業キャッシュフローを上回る投資を実施予定

#### 計画比(2023年度末予想)

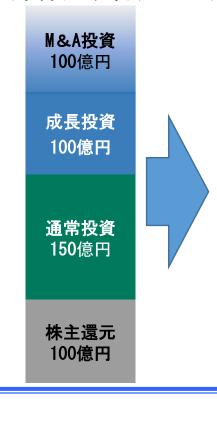
中期計画(3年累計)

見通し(3年累計)

〈キャッシュイン〉 〈キャッシュアウト〉

くキャッシュイン> くキャッシュアウト>





資産 有効活用 借入金調達 210億円

営業 C F 210億円

M&A投資 110億円

成長投資 50億円

通常投資 150億円

株主還元 110億円

- Femitec社
- 東北電機製造
- Lorch社 他(検討中)
- 高周波電源システム 増産投資 他
- ◆中期計画との比較

**<キャッシュイン>** 

長納期部材の確保や次年度に備えた 在庫増加により営業CFが減少。

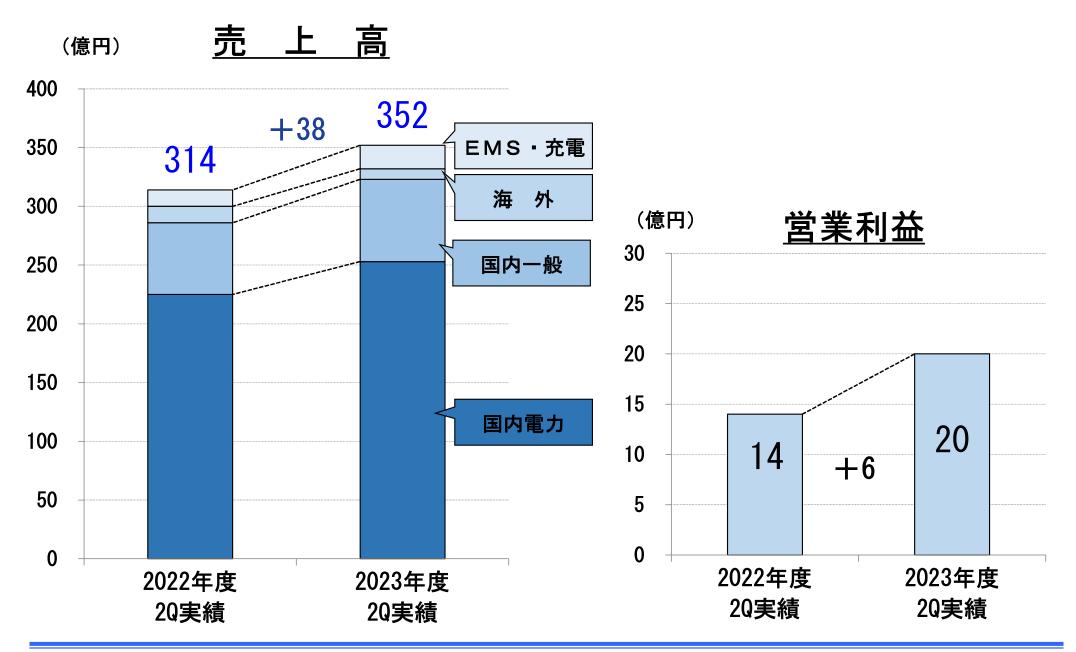
**くキャッシュアウト>** 

成長投資(研究開発棟建設)が遅れているがM&Aは計画を上回る水準。

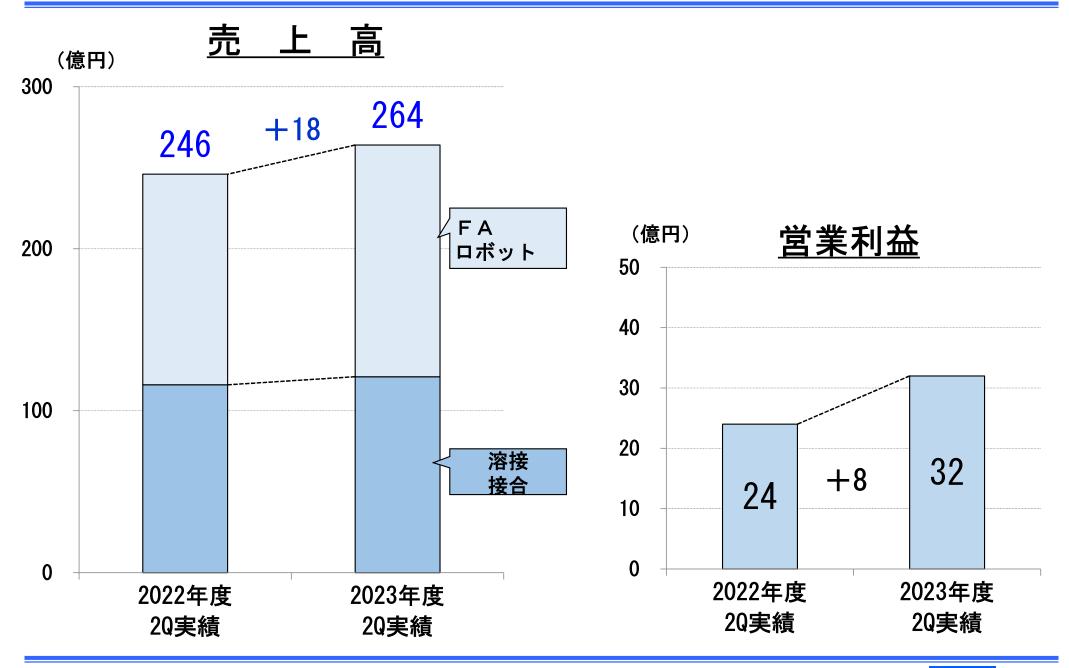
# 【参考資料】

• 旧事業セグメントの業績

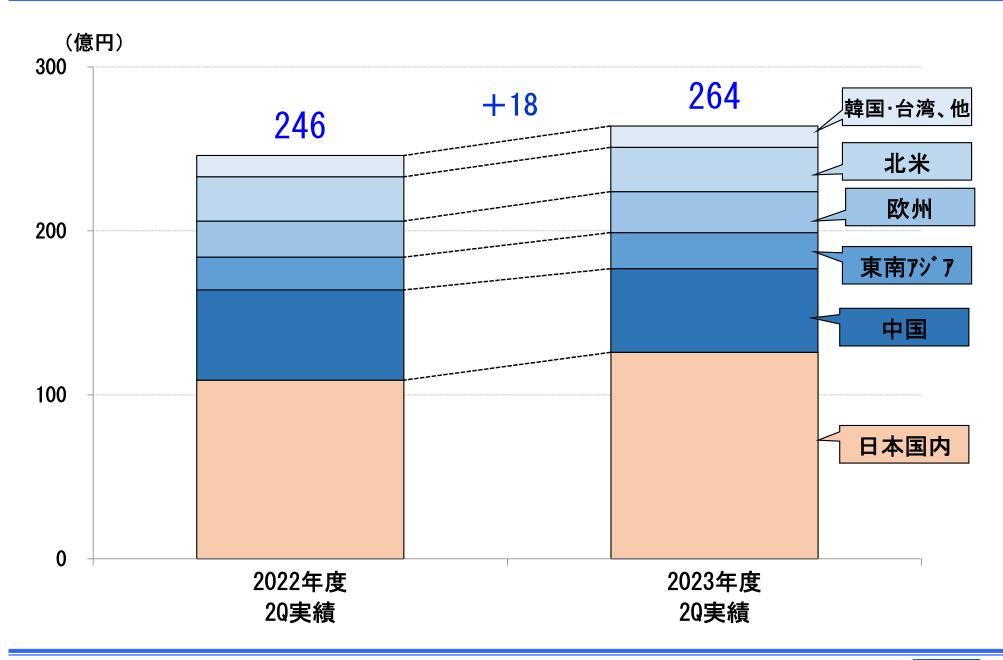


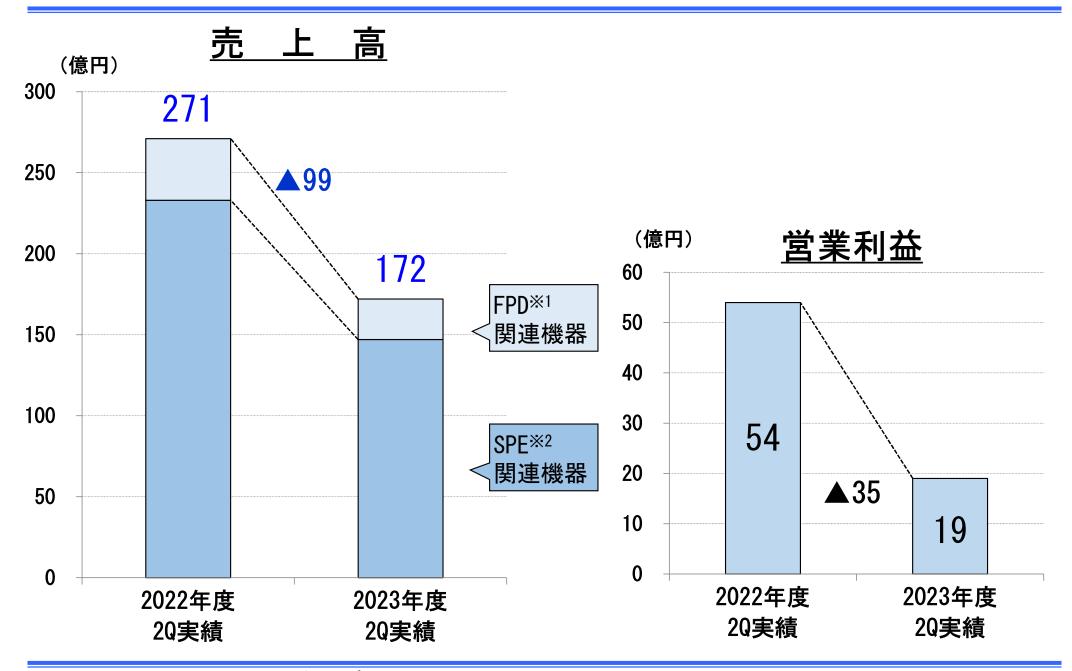


# 2 溶接メカトロセグメント



# 2 溶接メカトロセグメント (地域別売上高)





※1 FPD: フラットパネルディスプレイ製造装置

※2 SPE: 半導体製造装置

# 将来予想に関する注意事項

- 本資料には、当社(連結子会社を含む)の見通し等の将来に 関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報 を基礎とした判断および仮定に基づいており、判断や仮定に 内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等 による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績
- なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。
  - 主要市場における経済情勢及び需要・市況の変動
  - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
  - 為替相場の変動
  - 原材料価格の相場変動

と大きく異なる可能性があります。

- 競争企業の製品·サービス、価格政策、M&Aなどの事業展開
- 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化